

羽田空港の機能強化について

国土交通省 航空局
平成29年11月

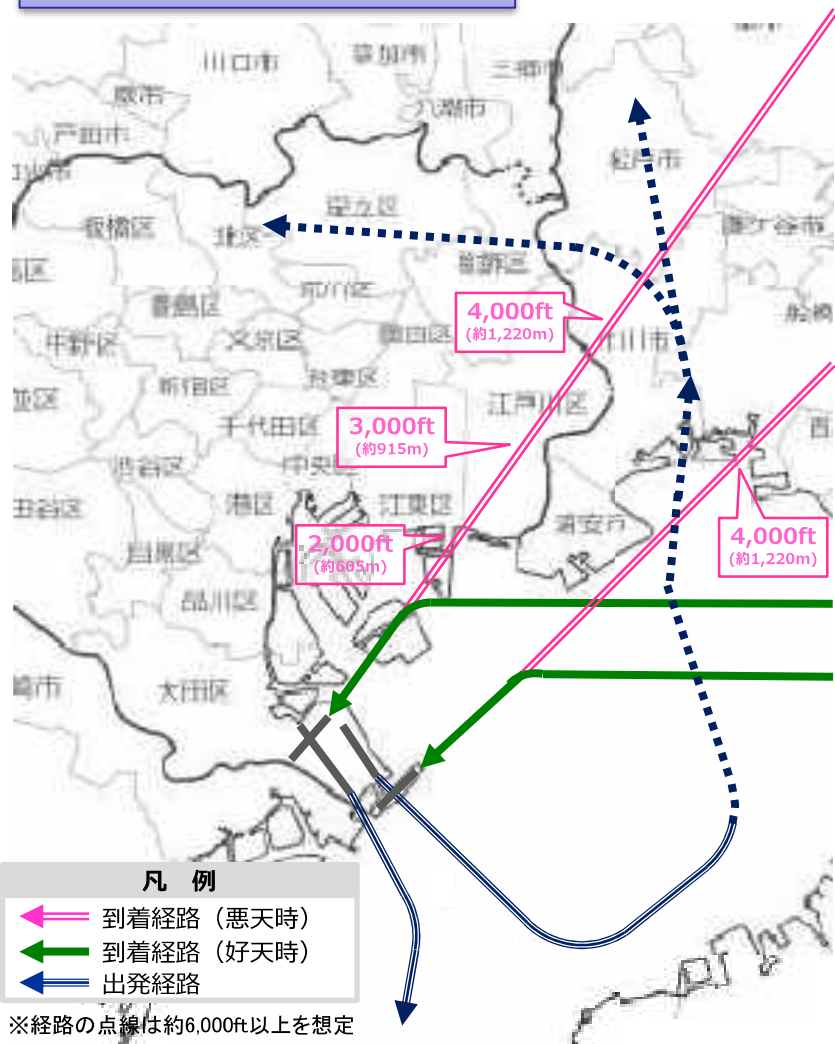
首都圏空港機能強化技術検討小委員会の中間取りまとめをふまえた 今後の首都圏空港の機能強化に関する取組方針について

	■2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会までに実現し得る主な技術的な方策	■2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会以降の技術的な方策
羽田空港	<p>【現状：約45万回】</p> <ul style="list-style-type: none"> 滑走路処理能力の再検証 滑走路運用・飛行経路の見直し <p>⇒ 年間+約4万回</p> <p>計 +約4万回 【1日約50便】</p>	<p>(・滑走路の増設)</p>
成田空港	<p>【現状：約30万回】</p> <ul style="list-style-type: none"> 管制機能の高度化 ⇒ 年間+約2万回 高速離脱誘導路の整備 ⇒ 年間+約2万回 夜間飛行制限の緩和 ⇒ 年間+α回 <p>計 +4万回+α 【1日約50便】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 既存滑走路の延長 滑走路の増設 ⇒ 年間+約16万回
合計	約83万回 (年間75万回+約8万回) 【1日+約100便】	約100万回 (年間約83万回+約16万回)【1日+約200便】

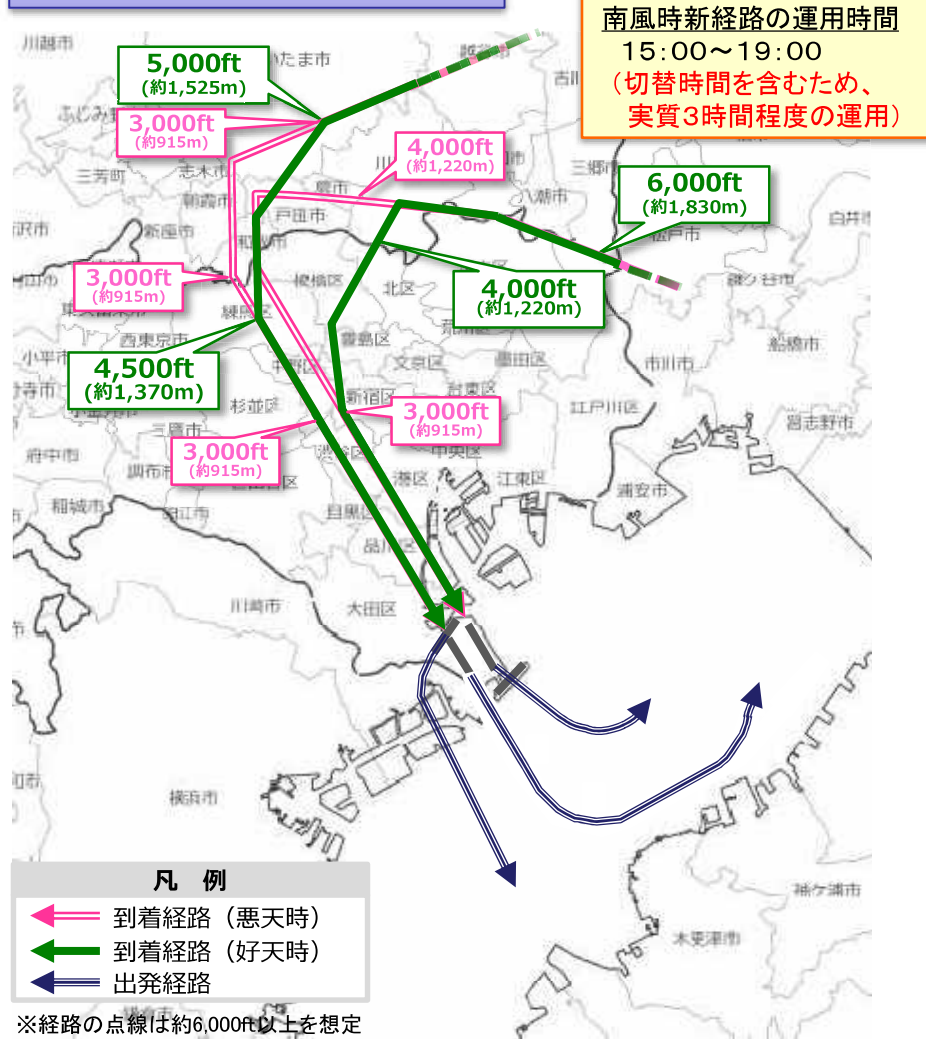
※赤字は観光ビジョンの目標達成に向けた施策

羽田空港における滑走路運用・飛行経路の見直し案(南風時)

現行飛行経路
(離陸・着陸合計: 80回/時)



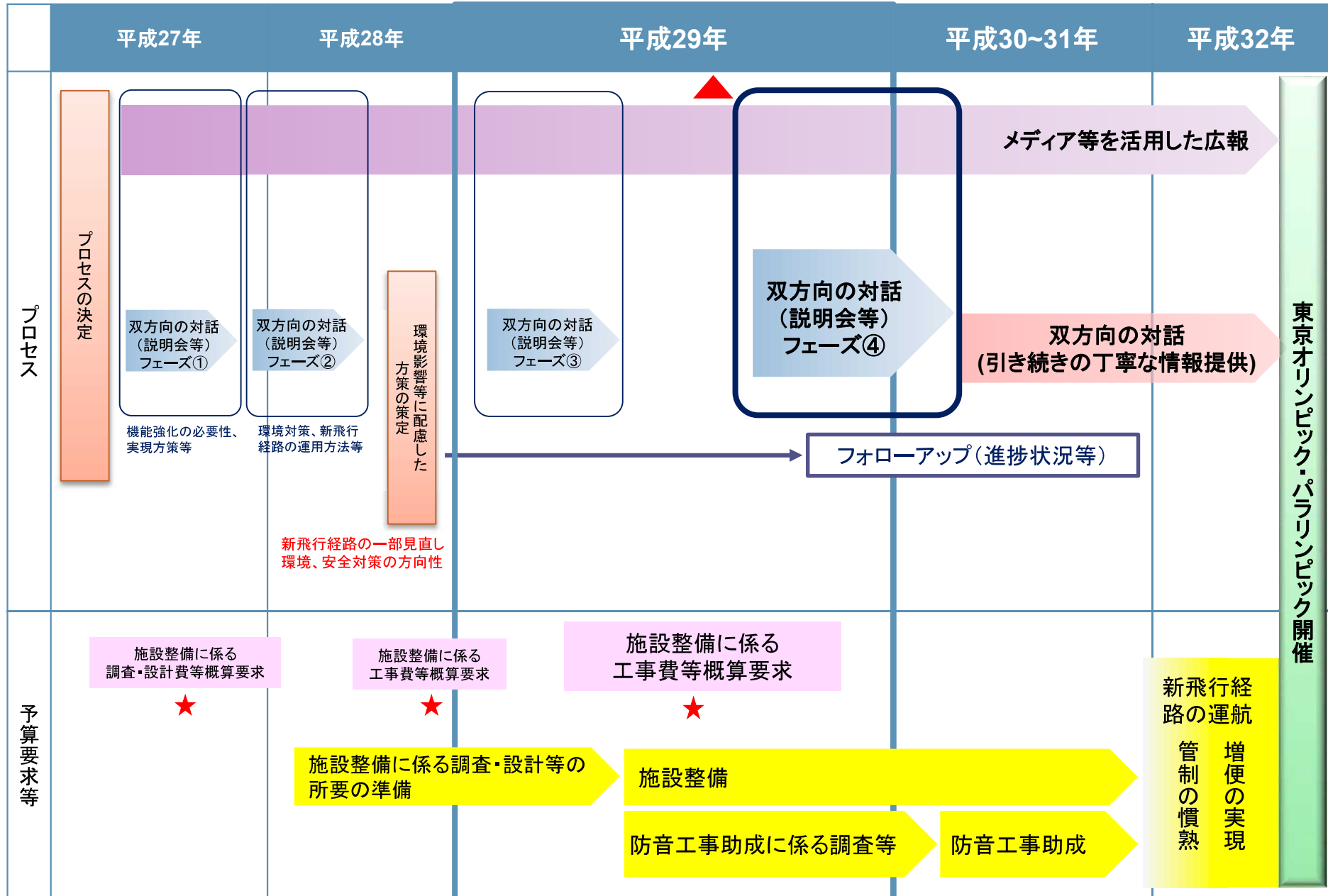
新飛行経路案(南風時)
(離陸・着陸合計: 90回/時)



南風運用の割合
約4割(年間平均)

南風時新経路の運用時間
15:00~19:00
(切替時間を含むため、
実質3時間程度の運用)

羽田空港機能強化に向けたプロセス



- **落下物対策**については、住民説明会での意見や最近の発生事案を踏まえ、**総合的に対策を整理、充実させていく。**
- 今後、関係者との調整を進め、**新飛行経路の運用開始までに対策を実施する。**

外航社も含めた未然防止策の徹底

事案発生時の対応強化

(1)落下物を未然に防止するための、遵守すべき落下物防止対策基準の策定

(2)あらゆるチャネルを通じた未然防止策の徹底

- ① 外航社も含めた航空会社に対し、羽田空港の乗入れ航空会社等の会議において、適切な整備・点検を徹底するよう、繰り返し指導
- ② 国・航空機メーカー・本邦社との会議に、新たに外航社を招集した上で情報共有
- ③ 多国間の国際会議で乗入れ各国に対して注意喚起



(3)駐機中の機体チェックの強化

- ① 空港管理者による新たなチェック体制の構築
- ② 外国航空機に対する検査の強化
 - 今後検査回数を増加する際に、成田、羽田を重点化



(2)情報収集・分析の強化

- ① 全国の空港事務所等に対し、落下物情報の報告について再度徹底（警察にも協力依頼）
- ② 事例を踏まえた原因分析の強化
- ③ 原因者特定方法の充実・強化
- ④ 外航社を含めた部品欠落の報告制度の拡充



(3)航空会社に対する処分等の検討

落下物の原因者である航空会社(本邦社及び外航社)に対して処分等を行う方針。具体的な内容や手続きを検討中。

(4)補償の充実

- ① 救済制度(保険)の加入促進
 - ※加入状況:成田9割、羽田6割
- ② 見舞金制度の創設